

# 常滑市民病院だより

発行者： 病院長 鈴木 勝一  
編集： 病院広報委員会  
第40号 2007年7月1日発行

「皆さんに親しまれる病院を目指して・・・」

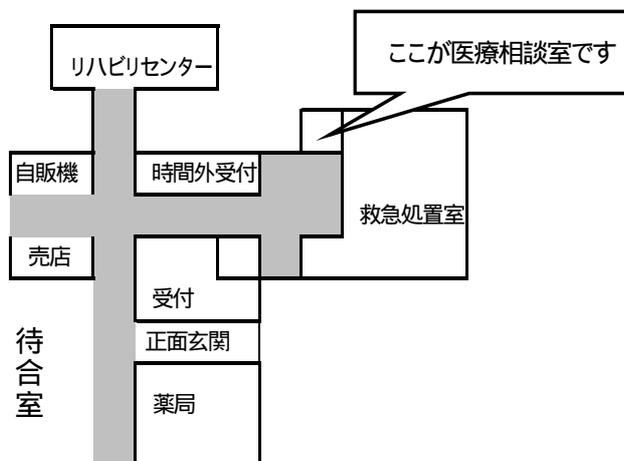
業務課長 山田 拓雄

毎日多くの方が外来にみえ、また、入院されています。セントレアが開港し、若い人の流入人口も増えていますが、一方で、高齢化も進んでいて、高齢の方の来院も多くなっています。高齢の方に限らず、初めて、この病院で診察を受ける方や、久しぶりに来院された方にとって、利用しやすい、親しみがもてるような病院を目指して、スタッフ一同、努力しています。

病気に立ち向かうには、患者様と病院の協力が不可欠です。病気と向かい合うという、精神的にも、体力的にも辛い皆さんを、病院として、できる限り、サポートして行きたいと考えています。そういう意味で、病院は、皆さんと「いい関係」でありたいと思っています。

病院には、医師を始め、看護師、助産師、薬剤師、検査技師、放射線技師、理学療法士、臨床工学技士、栄養士、事務員等々のスタッフがいます。また、一般的な相談については「医療相談室」があり、専門の相談員(ソーシャルワーカー)が常駐しています。病気のことのみならず、退院後の療養生活のこと、各種制度の案内等々しています。ぜひご利用ください。

私も、随時、院内を廻っています。「業務課長 山田」の名札を見かけたら、お気軽に声をかけてください。



「HOT な関係をめざして」

東4階看護師 山田 美弥子

東4階病棟では、2年前から在宅酸素療法(HOT)を受けている患者様を対象に、呼吸器外来(HOT外来)にて看護・指導を行っています。これは、病棟看護師がHOT患者様に自宅で困っていることを伺い、一日でも長く自宅療養、または入院時、円滑に治療・看護ができるようにと始めました。当初は、忙しい病棟業務の中で外来に行くのは、大変なことでした。しかし、今はHOT外来に行くことが習慣化され軌道に乗っています。

具体的にHOT患者様からお話を伺ってみると、「自宅の酸素器の調子が悪い。」「旅行に行きたいがどうしたらいいか?」「最近、調子が悪くて外に出るのがおっくうだ。」等の声を聞き、できる限りの解決方法を指導させて頂きました。

入院・外来と継続的に患者様と接することは、その患者様の生活環境・性格などがわかり、その患者様にあった指導ができるのではと考えています。また患者様も入院時、顔見知りの看護師がいることで不安な気持ちが少しでも解消され落ち着いて入院生活が送れるようです。

年に1回、HOT患者様主催のバスハイクがあります。今年は、5月12日にあり、東4階病棟のスタッフも参加しました。診察の時とは違った患者様の表情が拝見でき、さらに親近感も沸き、楽しく1日を過ごすことができました。

今後もよりよいHOT生活が送れ、HOTな関係が築けるよう、東4階病棟スタッフ一同これからも個別性・継続性のある看護をしていきたいと思っています。



(絵 人工腎センター 澤田 美好)

## 「夏の小児の感染症」

小児科部長 高橋 秀明

夏が近づき、海へ、山へ、海外へと家族で遊ぶ計画を立て、さあ明日出発という時に、子供が突然の発熱という事はないでしょうか。そんな由々しき夏の感染症についてです。

手の平、足の裏や甲、口の中に水疱ができていたら手足口病かもしれません。水疱は手や足の一部だけや、肘や腕、膝や大腿や臀部にまでできることがあります。手足の水疱は痒み、痛みはないはずですが、口内にできると痛みで食べれない、水分がとれないことがあります。原因はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスで、潜伏期約3~5日、経口・飛沫・接触（水疱内容物から）感染します。

発熱・喉が痛い・喉が赤い・眼が赤いならば咽頭結膜熱（プール熱）かも。原因はアデノウイルスで潜伏期約5~7日、症状は発熱が約3~5日間続き、咽頭炎や扁桃炎による喉の痛み、眼の充血、流涙、眼脂などです。兄弟だけでなく患児の親にもうつる事があります。

発熱・喉が痛い・喉が赤い・喉に水疱ができたならヘルパンギーナかも。原因はコクサッキーウイルス、エコーウイルスなどで、潜伏期2~4日、喉の小水疱の周囲は赤くなったりし、灰白色の小潰瘍もできたりします。

これらのよくあるウイルス感染症は特別な治療法はありません。治癒して当然と思われていますが、自然治癒する普通の経過と、髄膜炎・脳炎・脳症・心筋炎などの合併症を伴う重症な経過があります。

喉が痛くて、熱でぐったりしてなど、水分が取れない時は、児が欲しがらなくても、いやがっても、水・お茶・好きなジュースなどをスプーン1杯ずつでもいいので、少量ずつ回数多く与えるようにして下さい。

旅館ではなく病院に泊まることにならないように、石鹸で手洗い、うがいなど、予防に努めて下さい。



## 「水虫の薬」

薬剤師統括主任 加納 正郎

## 水虫とは

水虫はカビ（真菌）で、多くは皮膚糸状菌の一種の白癬菌が皮膚の角質層に寄生して起きる疾患といわれています。白癬菌は皮膚表層の角質に含まれるケラチンという蛋白質を栄養にして増殖していき、足がかゆくなる・じゅくじゅくする・皮がむける等の症状を呈します。足だけでなく手・爪・股・頭・毛にも寄生します。金属アレルギーによるかぶれ等、水虫に似た症状を呈するものもありますので、症状が似ているからと自己判断はせず、皮膚科医の診断を受けてください。

## 治療薬は

現在は優れた治療薬ができ、角質との親和性が高く長く留まるようになり、殺菌力も強くなりました。正しく使用すれば副作用も少なく、完全に治すことも可能です。効果が長く続くので塗り薬の多くは1日1~2回の使用でよくなりました。外用薬には液・クリーム・軟膏・ゲルがあり、部位や病状により使い分けます。そして外用薬では効果が弱いとき内服薬を使用することもあります。例えば、イトラコナゾールという薬は通常より多い量を1日2回食直後に1週間服用し、3週間休薬することを1コースとしてそれを3回繰り返すパルス療法という方法もあります。

## 正しく薬を使うために

患部より広めに、薄く塗りこみ、医師の指示の回数を守って使用してください。量や回数を増やしても早く良くなるわけではありません。かえって皮膚炎の原因となることがあります。良くなった様に見えても、角質の奥にまだ白癬菌が残っていることがあるので、しっかりと塗り続けてください。薬が強くしみたり、痛みや腫れがあれば、かぶれや細菌感染の恐れがありますので、医師に相談してください。

## 感染を防ぐために

足から剥がれ落ちた角質の中の白癬菌を再び踏んで感染を繰り返したり、他の人が感染したりすることが考えられます。

足を毎日丁寧に洗い、清潔にして、長く高温多湿の状態にしない。

靴は爪に負担をかけないものを履き、よく乾燥させる。

靴下は通気性のよい木綿製のものを履き、毎日取り替える。

カーペット・畳の掃除をし、角質を残さない。お風呂のマットを清潔にする。

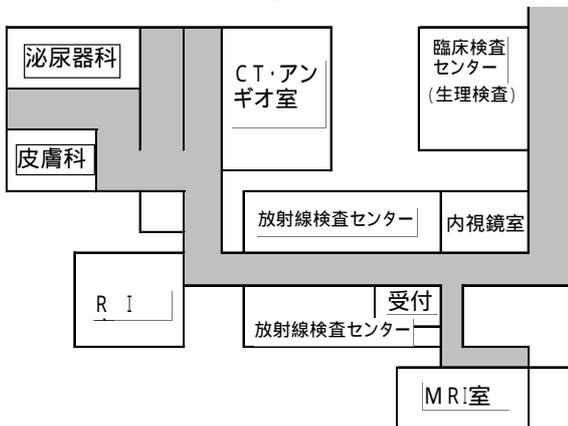
以上をしっかりと守ることが大切です。

「放射線防護」

放射線検査センター技師長 野定 成夫

放射線（主にエックス線）が診断、治療目的で医療に利用されるようになって百余年、病院や診療所を受診してのX線写真や人間ドックでの胸部写真、胃部透視、マンモグラフィ（乳ガン）、胸部CT（肺ガン）、住民健診での胸部写真、二次健診でのCT、マンモグラフィ等々、またガンの放射線治療（ガンマ、エックス線）にと放射線の医学利用は増加、発展してきました。診断、治療に欠かせないものになりました。一方では放射線を利用することは、被爆をすることでもあります。先人たちは、いかに被爆線量を減らすかをテーマに、より高感度のフィルム、増感紙、の開発やX線テレビのII管（蛍光増倍管）の高輝度化、などがその一例です。最近ではCR、DRに代表されるデジタル画像、FPDを利用した透視装置、（特に血管撮影装置）などが更に被爆低減に寄与してきました。様々な先人の努力の結果、日常の診療に利用する放射線の量は障害等を殆んど考慮しなくても良いレベルになりました。動物実験やヒロシマ、ナガサキの被爆者の子供たちの調査、研究により、日常診断に利用する放射線量では殆んど影響がないことがわかってきました。皮肉にも充分被爆管理されている施設とそうでない施設との見かけ上の差がなくなってきました。一方医療人の側に気のゆるみ、ちょっとした油断が生じた結果と思われる事件、数年前の某大学病院でのIVR施行時の皮膚障害、放射線治療での過照射などがおきてしまいました。

ここで今一度原点に立ち返り、自分が照射した放射線は適切な量なのか、機器は正常に作動しているか、など問い直していかねばなりません。今後新病院では放射線治療の導入も検討されています、よりいっそうの放射線管理が求められてきます。



放射線センター案内図

～患者会だより～

平成10年7月に在宅酸素療法(HOT)の患者さんが「充実した家庭生活を営み、会員相互の親睦を図ること」を目的に「山茶花の会(さざんかの会)」が発足しました。行事としては年一回の総会とバスハイク、会報の発行を行っています。会員数は平成19年度23名で現在も募集中です。年会費は1500円です。

今までに発行された会報よりバスハイクに参加された会員の声を紹介します。

<Iさん>

「バスハイクに最初に参加した時は楽しみもあり、不安もありましたが、3回目ともなれば気軽に参加できるようになりました。又会員同士で日常生活、趣味、娯楽など気軽に会話ができるようになったと思います(以下略)」

<Kさん>

「今にも降り出しそうな空模様のなか市民病院を出発、知多半島横断道路から衣浦大橋を経てデンパークに向かった。(途中略)会員仲間の旅は、何のわだかまりもなく大いにしゃべり、食べ、はしゃいで身も体もリフレッシュされ、その晩は熟睡することができた。先生の「低肺者よ外に出よう」にこたえて来年もぜひ参加したいと思います。」

ふだん酸素ボンベを持っての外出がままならない会員の皆様にはバスハイクは特に好評です。

バスハイクにあたっては行き先の決定、予備酸素の準備、バスや保険の手配などに酸素メーカー、市役所、病院事務の参加や協力を得ています。そして当日は医師、薬剤師、作業療法士、看護師も車椅子や救急BOXの準備をして会員の皆さんの移動のお手伝いをしながら、病院では見られない会員の人達の普段の生活にふれて、職員も良い刺激をもらっています。

今までのバスハイクの行き先と参加人数をお知らせします。

11年	エバ酸素工場、ランの館	17名
12年	アクアプラザながら、なばなの里	17名
13年	あいち健康の森	18名
14年	デンパーク	16名
15年	名古屋港水族館	15名
16年	なばなの里	16名
17年	昭和村	14名
18年	エバHOT ハウス	14名
19年	東谷山フルーツパーク	13名

お問い合わせは

内科外来の河合・芳山までお願いします。

## ～ 新任医師紹介～

当院では4月より4名の新任医師と1名の研修医が勤務しています。簡単なプロフィールを掲載します。

### 千郷 欣哉

【所属】 腎臓内科  
【前任地】 名古屋市立大学 腎臓内科  
【趣味】 音楽鑑賞・スポーツ

### 平岩 真紀子

【所属】 耳鼻いんこう科  
【前任地】 名古屋大学 耳鼻いんこう科  
【趣味】 散歩・テニス・絵を描くこと

### 久野 直人

【所属】 整形外科  
【前任地】 碧南市民病院  
【趣味】 旅行

### 有田 編理

【所属】 循環器内科  
【前任地】 名古屋医療センター  
【趣味】 バスケット・囲碁

～ 研修医～

### 後藤 礼司

【趣味】 バスケット・映画鑑賞・ドライブ

## ～ 院内探索コーナー～

常滑市民病院の売店は常滑市社会福祉協議会の4名の方々が店の切盛りをされており、売店の前には休憩所ひとやすみがあり、現在は有志の方々による水彩絵手紙が展示されています。



## ～ 新人看護師紹介～

看護師になることができて...

中川 真希

この4月から、常滑市民病院の一員になることができました。看護師になることが昔からの夢であり、今こうして、患者様のためにスタッフの皆さんと一緒に働けるということに喜びを感じています。同期は9名です。今年度、私と一緒に国家試験に合格した仲間や以前に免許を取得した仲間もいて、経緯は様々ですが、4月に初めて会ったとは思えないくらい仲良くさせてもらっています。

今私達は、今年度から導入の「ローテーション研修」を行っています。「ローテーション研修」とは、全体の集合教育で、配属前にそれぞれの病棟の雰囲気や特徴を知り、職場に慣れていくために各病棟を2週間研修してきます。研修では、分からないことだらけの私達に先輩スタッフさん達が優しく指導をしてくれます。また、患者様とのふれあいがとても楽しく、日々たくさんのことを学ばせていただいています。7月から配属先が決まり、これから嬉しいことばかりではなく辛いことも待っていると思います。しかし、自分が思い描いている誰にでも優しく、笑顔を忘れないという看護師像に近づいていけるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。



～ 新人の看護師 9 名です～

## 編集後記

今年も暑い夏がやって来ました。夏といえば数年前まで病院の前に伊勢湾が迫っていた頃、海からは潮の香りや、その他いろいろな香り？がしたものです。患者様や働いているスタッフに安らぎを与えてくれた自然の事象が、身近から遠くなっていく寂しさを感じる今日この頃です。

(編集担当 中谷)